

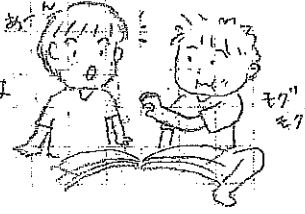
しいの実ぐみ 春 少しずつ暖かい日も増えてきて、ジャンパーを着なくても出掛けられるようになってきました。

その日に散歩へ行くと、よ〜いドンをしたり自分で歩いています。色々な物を見つけに行くと「あ、あ」と指を差して保育者に見つけたことを知らせています。子どもたちも春が近づいてきたことを身体で感じているようです。これからもゆっくりと子どもたちのペースで散歩を楽しみ、春を見つけたいと思います。

友だちとの関わり

今まで一人で遊んだり、姉保育者と遊んだりしてきた子どもたちですが、少しずつ周囲に関心が向き始めています。友だちの遊びが気になり相手が使っているおもちゃが欲しくなって取ったり、誰かが楽しいことや泣いていると不思議に感じてペンペンと顔を叩いてみたり、大人から見ると「何でそんなことするの?」「したらダメだよ」と思うことがあります。しかしまだ一歳を過ぎた子どもたちは何がいけないのかなが分かりません。興味があるから関わりに行っています。そんな時は保育者が言葉にできない子どもの思いを代弁しています。「このおもちゃ使いたか、たの?」「こっちにもあるよ」「お友だち泣いてるねえどうしたの?」と一緒になでるしくさをします。何度も繰り返して時間をかけて相手のことが分かるようになってきます。

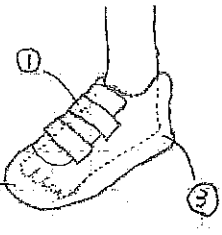
先日、食べ物のお絵本を見ているとつまんで食べる真似をし始めました。つまんで横にいた友だちに「パクパク」とおすそわけをしています。また別の日には友だちが一人で走っては向きを変え、往復して遊んでいるとそれを見て子どもが一緒に走り、2人、3人...と広がりケラケラと笑い合っています。笑い合ったり、思いのぶつかり合いをくり返して、たくさん人と関わることを経験して、いいなと思います。



靴の選び方

赤ちゃんの足は軟らかく、5歳くらいまでに形成されると言われています。それだけに外からの影響を受けやすく、靴によっては足の形が変わることもあるので、こまめにチェックしましょう。次に買われる時の参考にしてください。

- ① 子どもの甲の高さに合わせてマジックテープで調節できるか。
- ② つま先に足の指が伸びる広さや高さがあるか(足の指を使って歩くため)
- ③ 靴底はクッション性があり厚すぎないか。



* 足が曲がる位置で靴にも曲がるかどうか(サイズが大きいと位置がずれます)
* 吸気性や通気性の良い軟らかな素材のもの

しいの実・たんぽぽ・みずぐみ
2月 クラスだよ!

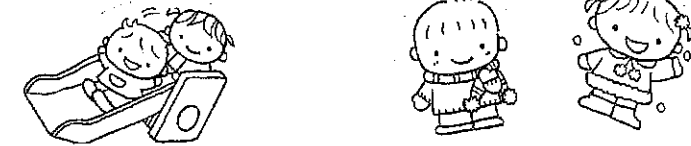
今年度もあと1ヶ月となりました。コロナウイルス感染拡大で世の中が不安な時にも、元気に遊ぶ子どもたちの姿に大人も元気をもらっています。寒暖の差が激しい時期でもありますので、引き続き感染症にも充分注意して過ごしていきたいと思います。

♪たんぽぽぐみ♪

戸外に出ることもとても楽しみにしている子どもたちです。ここ数年は暖冬といわれた冬でしたが、寒くて、空気が冷たくて涙する子どもが多くなりました。しかし、今年のだんぽぽ組の子どもたちは違うようで、今年の寒さ厳しい日でも動くことなく元気に戸外あそびを楽しみます。言葉の意味を知ってか、「さむいねえ」とは言うものの、表情はにこやかな子どもたちです。

御旅所に行けば、どんぐりを集め、探索し、保育者との追いかけっこを楽しみます。公園に行けば、すべり台でくり返しあそび、スワウソウ遊具を友だちと交代で楽しみます。足場散歩では、それぞれが好きな場所を見つけてあそび、電車になたり、段差からジャンプをとりしています。目的地までの道中では、子ども同士の手つなぎが上手になりました。中には、保育者の見守りのもと、子どもだけで手つなぎで歩いています。歩いてると色々な興味深いものが目に飛び込んできては、友だちや保育者に知らせ、足を止めて見て、楽しいことを共有しています。たんぽぽ組として過ごすのは、あと一ヶ月ほどになりました。今年度が始まった頃より、身体は大きくなり、出来る事も増えました。行動範囲も広がり、一人ひとりの視野も広がってきました。これから、戸外でのあそびをのびのびと楽しみ、色々なところから刺激をもらい、明日も保育園に行きたいと思える楽しいことをいっぱいしていきなさいと思います。

お自我の育ち
2~3歳の時期は、「イヤ、と」と「ふん、ふん」などの言葉や行動で自我を表現し、それを受けとめてほしいという願いが反抗や拒絶として大人に見てしまわれがちです。子どもの「イヤ」に対して何かはんていさせようとしたら、「イヤ」をそのまま受け入れて放っておくのではなく、落ちつくのを待つことや、自ら見守る姿とあそぶのを待ってあげたり、興味かもある選択できる2つのことを提案し、子どもが選んだことを喜び、そのことを大人が見守ることが大切になります。毎日、家庭と仕事に子育てと、とても忙しく、子どもの行動に寄り添い、時間を費やすことが難しいご家庭もあるかと思いますが、お父さん、お母さんも、ほこりや時間と機転を利かせて、日々、大きくなっていく子どもと向き合う時間を作ってあげてはいかがでしょうか?



みずぐみ

寒さが続き、室内で遊ぶことも増えていました。ふと、外を見ると雪が降っており、「ゆきだあ」と喜ぶ子どもたちです。外で遊ぶ時には自分で引き出しからトレーナーと長ズボンを取り、ジャンパーにも着がえ準備万端です。いざ外に出てみると、「さむいからはいる」という子どもや寒さにも負けず元気に走り出し、温かくなってきたので、ジャンパーを脱ぎ出す子どももいます。室内では、コロナウイルス感染予防のため、窓を開けて換気をしています。そして、保育室の中では、戸板登りで全身の力を使って登ろうとしていました。平均台やマットの山など身体を動かしたことで「あつい」と汗をかきながらもくり返し楽しんでいました。

豆まき 今年の豆まきでは、コロナのこともあり、昨年のようにたいよう組の子どもたちの鬼がたくさん来たり、大人の鬼が来てびっくりして泣いてしまったりといったことはなかったです。子どもたちの中では、ときどきしていたり、「おにさんいない?」と聞いている子どももいます。豆まきの話を聞いて、ダンボールの鬼におかして一生懸命豆に見たてた新聞紙やカラーボールを投げて「おにはそと〜」と言って楽しんでいました。

制作展 子どもたちが自分で、自由に選んで作ることを大切にしました。使用したものは生活の中にある身近な素材でしたが、完成した飾りは一人ひとりの個性が光り、想像力を膨らませてとても素敵なお城やおうち、電車、パンダなどの動物になりました。「きょう、みんなみにくるねん!」とおうちの人と一緒に見られることが嬉しいようで、朝登園した時から楽しみにしている子どもたちでした。

「できない…」を「できた」に イヤイヤ期がまっ盛りの2、3歳児です。保育者の「片付けよかー」の声に「イヤー」という声が届いてきます。また身の回りのことで「できない」と言って泣いてしまうこともあります。その時につい大人が手助けをしてしまいがちですが、この2、3歳の時期の子どもたちは「できない」と「できた」を繰り返して、「できた、できた」の達成感が増えて、どんどん成長をしています。できないことが色々なきっかけで乗り越えられ、できるようになった時、また一つ成長していくのです。子どもが「できない」という時には、手助けをしすぎないように近くで見守り、「できた」時には、一緒に喜び、子どもの自信に繋げていくことが大切になってきます。

